

平成23年度事業報告書

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

特定非営利活動法人 雨読晴耕村舎

1 事業の成果

事業は2年目となるが、3月設立のため、ほぼ1年目といえる。「農ある暮らし」を普及するために、家庭稲作教育ファーム講座（一般にも可能な不耕起・有機農業講座）を羽生市農政課の協力を受けながら、年間10回開催でき、農業に役立つ大工講座も5回実施できた。また、他のNPOとともに子供向けにも環境農園教室を3回開催した。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
①農あるくらしの普及啓発および人材育成事業	「家庭稲作教育ファーム」という、農業に関心が高い社会人向け講座の開催に向けて、実施準備を行った。	通年	羽生市	3名	一般市民 15名	324
②農園環境教室事業	他のNPO法人と共同で、子ども向けに田植えや生物観察、稲刈りなどを3回実施した。	通年	羽生市	4名	一般市民 50名	0
③調査研究、技術開発およびその成果物等の情報提供事業	本年は実施していないが、次年度以降に実施する予定。	通年	羽生市	3名	一般市民 不特定多数	0

平成24年度事業計画書

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

特定非営利活動法人 雨読晴耕村舎

1 事業実施の方針

1) 「農ある暮らし」実践のための技術開発および人材育成

人類は地球環境に大きな負荷をかけており、地球温暖化や生物多様性、資源枯渇の問題などが深刻化しつつある。次世代に未来のある地球環境を残すために早期に低炭素社会、循環型社会を実現することが必要である。さらに、日本には豊かな自然が残り、田園も多く残されているが、経済性の低さから活用されておらず、食糧自給率も低いままとなっている。こうした現状の解決のために、都市近郊において環境に優しい農業技術を開発しつつ、都市部に住む人に有機かつ簡易的な方法による稲作技術を学んでもらう。本年は初めて行う初級コースの他、2年目の受講生には耕作放棄地を活用した稲作実践を行う。

2) 四季を実感する農園環境教室

田園は多様な生物を育み、人間も四季折々を実感しながら生活できる環境である。自然と調和した生活は日本人が長年、営んできた生活スタイルであるが、近年は忘れ去られてしまった。そこで、次世代を担う子供に身近な自然の素晴らしさや、自然との共生の重要性を伝える知識普及啓発活動を行うこととする。

2 事業の実施に関する事項（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施 予定 日時	実施 予定 場所	従事者 の予定 人数	受益対象者 の範囲及び 予定人数	支出見込 み額 (千円)
農ある暮らしの普及 啓発および人材育成 事業	休耕田を利用した不耕 起稲作教育ファーム	通年	羽生	3人	不特定 多数	15人 380
農園環境教室事業	羽生環境農園教室	6,7,10月 の3回	羽生	4人	不特定 多数	50人 40
調査研究、技術開発 およびその成果物等 の情報提供	休耕田を利用した不耕 起稲作法の開発および 情報提供	通年	羽生	1人	不特定 多数	20人 20